

もも・ネクタリン特報

No. ⑦

2020. 6. 2

J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

【もも・ネクタリン共通】
せん孔細菌病対策として、展着剤をアビオンEに変更しています。

もも

第7回 定期散布

散布日	6月	日
散布量		リットル

散布時期	6月中旬（前回の散布から14日後。ただし、6月上旬の特別散布実施園は、10日後） ・散布日の目安： <u>6月10日～19日</u>		
散布薬剤	水 100ℓ当り { アビオンE（固着性展着剤） 100ml トレノックスフロアブル 200ml （収穫7日前まで、5回以内） ⑧ ダーズバン DF 33g （収穫14日前まで、5回以内） マイコシールド 66g （収穫21日前、5回以内）		
散布量	10アール当り 600ℓ		
混用順	水 ⇒ 展着剤 ⇒ トレノックスフロアブル ⇒ ダーズバン DF ⇒ マイコシールド		
対象病害虫	せん孔細菌病、黒星病、灰星病、シンクイムシ類、ハマキムシ類、ウメシロカイガラムシ		
【注意事項】	カメムシ類 発生園は、スミチオン水和剤40の1,000倍（3日前、6回）を加用する。		

ネクタリン

第7回 定期散布

散布時期	6月中旬（第6回目の定期散布から14日後） ・散布日の目安： <u>6月10日～17日</u>		
散布薬剤	水 100ℓ当り { アビオンE（固着性展着剤） 100ml トレノックスフロアブル 200ml （収穫30日前、5回以内） ⑧ ダーズバン DF 33g （収穫14日前、2回以内） スターナ水和剤 100g （収穫7日前、3回以内）		
散布量	10アール当り 600ℓ		
混用順	水 ⇒ 展着剤 ⇒ トレノックスフロアブル ⇒ ダーズバン DF ⇒ スターナ水和剤		
対象病害虫	せん孔細菌病、黒星病、灰星病、シンクイムシ類、ハマキムシ類		
【注意事項】	①早生種（メイブランド、サマークリスタル等）は、トレノックスフロアブルに代えて、ベルクトフロアブル2,000倍（前日、2回）を使用する。 ②晩生種で、せん孔細菌病 多発園は、スターナ水和剤に代えてマイコシールド1,500（28日前、5回）を使用する。		

1、かん水について

- ・ 10 日以上、雨が降らない場合は、右表を参考にかん水を行なう。
- ・ 10 a 当り 1 ミリのかん水を行うには、水量 1 t が必要です。
- ・ 保水性の低い砂質土壌や根域の浅い土壌では、1 回のかん水量を少なくし、間隔を短くする。
- ・ 水源が少ない場合は、細根があると思われる部分に重点的にかん水する。

もも 時期別のかん水量の目安（成木）	
時期	10 a 当り かん水量
5 ～ 8 月(成熟 10 日前まで)	2 0 ～ 3 0 ミリ
成熟 10 日前～成熟期	5 ミリ

2、仕上げ摘果

- 満開 4 0 ～ 5 0 日後頃に実施
- * 本年は、6 月 5 日～6 月 2 0 日頃を目安に実施する
 - * ただし、晩生種で「せん孔細菌病」発生園は、被害果を見極めるため摘果時期を遅らせる。

もも 結果枝別着果量の目安		
結果枝	予備摘果	仕上げ摘果
長果枝	2 ～ 3 個	1 ～ 2 個
中果枝	1 ～ 2 個	1 個
短果枝	0 ～ 1 個	0 ～ 1 個

（長野県果樹指導指針より）

3、仕上げ摘果の要領

低温被害等により結実にバラツキがある場合や不足している場合

⇒ 品質・着果位置が悪くても基準量確保のため残す

- ・ 成木 10 a 当りの目標着果量は、10,000～12,000 果とする。樹勢が弱い場合は、着果制限する
- ・ 残す果実は、大きくて扁平な果実を残す
- ・ 着果位置は、結果枝の側方、または下方の果実を残す（上方は摘果する）
- ・ 長果枝（30cm 以上）が 2 果、中果枝（10～30cm）が 1 果、短果枝（3～10cm）が 6～10 枝に 1 果着果させる（* 図 1 参照）
- ・ 葉枚数は、モモが 1 果当り 40～60 枚、ネクタリンが 30～40 枚必要
- ・ 順序は、白鳳系・あかつき・なつっこ・白根 → 川中島白桃・ネクタリン → 黄金桃とする（黄金桃やファンタジアは生理落果が多いためやや遅めに実施する）

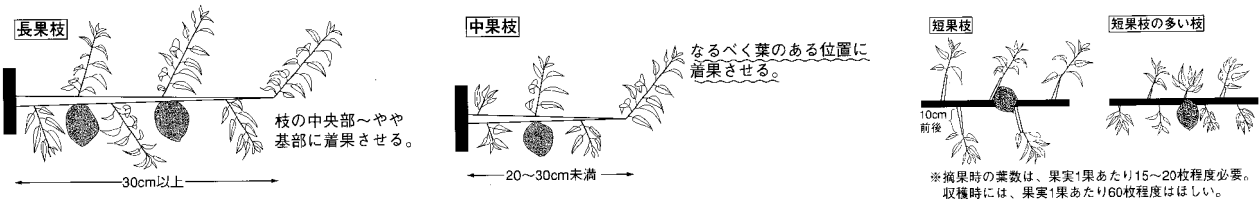
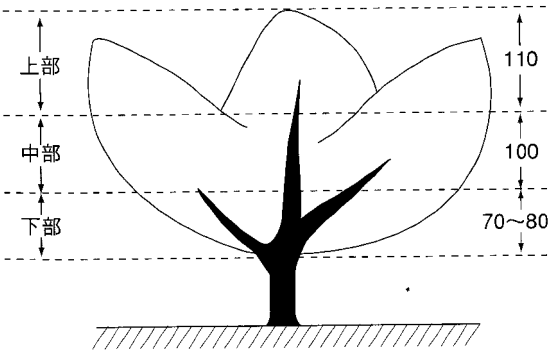


図 1 結果枝別の最終着果量

4、仕上げ摘果の留意点 * 硬核期（満開後 50～70 日）の極端な摘果は、核割れを助長するので控える。

- ・ 日照条件の良い樹冠上部の着果量を多めに、条件の悪い下部を少なめする（* 図 2 参照）
- ・ 大きくて丸味のある果実は、双胚果の可能性が高く、生理落果や「核割れ」発生の要因にもなるので摘果する（* 図 3 参照）
- ・ 生理落果や双胚果が多い場合は、仕上げ摘果でも多めに残しておき、袋掛け前に修正する
- ・ 無袋栽培は、枝葉の繁茂によって、果実が見えにくいため着果過多や着果ムラになりやすいので、枝を持ち上げて下方からよくみて実施する。



樹冠中部の着果量を100とした場合

- ・ 玉張りの悪い下部は70～80程度と少なめにする。
- ・ 玉張りのよい樹冠上部は110程度と多めに残す。

図 2 樹冠部位置別着果程度

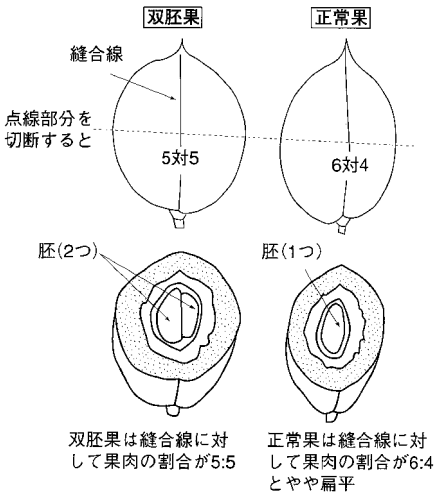


図 3 双胚果と正常果の違い